

神戸市環境未来都市構想 (概要版)

I 現状と課題

総括

- 【環境】**
- 原発に頼らずに電気の安定供給が求められる中、**太陽光・バイオマスなど再生可能エネルギーを中心とした分散型のクリーンエネルギー利用への転換**が課題。
 - 六甲山の豊かな自然を守り続けるため、森林を適切に管理して、**きれいな空気とおいしい水の供給源として活用**し、間伐材など**バイオマスの利用促進**も課題。
- 【超高齢化】**
- 神戸でも死亡数が出生数を上回り、**人口減少が長期的に続く見込み**。労働人口も大きく減少する見通しのため、国内の経済活動への影響が懸念される。高年齢者の自立支援、生涯を通じた健康づくり、介護の充実が課題。認知症など難治療疾病の発症を予防する**新しい治療法の開発**も必要。
 - 神戸では子どもの出生率が全国平均を下回る。保育所の待機児童は定員を増加しても発生。女性が**仕事と出産・育児を両立できる社会的な環境整備**が課題。
- 【その他】**
- 長期的な経済低迷の中、**医療産業都市関連の企業・研究機関、京速コンピュータ「京」など「知の集積」を活用して、海外からの企業誘致、地元企業との連携による新技術開発の促進等**が課題。

【現状、今後の動向、課題】

環境

- 分散型のクリーンエネルギーへの転換**
- 東電福島第一原発事故を契機に、全国的に火力発電へのシフトが進められている中、原発依存からの脱却とCO2削減の両立を図るため、再生可能エネルギーをはじめとした自立分散型発電への転換が求められているが、電力使用に伴うCO2排出量が大幅に増加する見込み。
 - 神戸市では、全てのクリーンセンターでのごみ発電の実施、家庭用太陽光発電の普及促進(H22年度末、約6,000基設置)など、再生可能エネルギーの普及を進めている。しかし、市内のエネルギー消費量に占める再生可能エネルギーの割合は現状で約4%と、十分と言えない状況。
 - 市民の貴重な財産である六甲山の緑豊かな自然をこれからも守り続けるため、市民・事業者の連携で適切に森林管理して、きれいな空気とおいしい水の供給源として活用するとともに、間伐材などバイオマスの利用促進も課題。

超高齢化対応

①長期的な人口減少

- 人口は155.7万人(2011年8月末)から2025年には146.7万人と、現状に比べて9万人、5.8%減少する見込み。
- 生産年齢人口(15~64歳)は、2015年には93万人と、2005年より8%減少する見込み。労働力不足により、国内の経済活動に影響が及ぶことが懸念される。

②急速な高齢化の進行

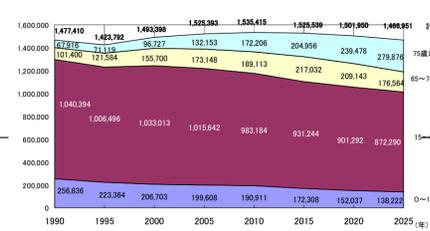
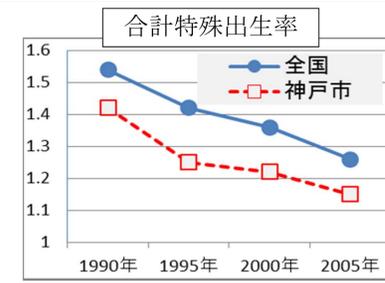
- 高齢化率は、現状の22.6%(2011年)から、2025年には31.1%へと8.5%増加すると推定されている(65歳以上の高齢者の単独世帯も増加)。高齢者の自立支援、生涯を通じた健康づくり、介護の充実が課題。
- アルツハイマー型認知症など難治療疾病について、発症そのものを予防する新しい治療法の開発も必要。

③少子化の進行

- 合計特殊出生率(一人の女性が一生に生む子どもの平均数)は、2005年には全国が1.26に対して、神戸市では1.15と下回る。神戸市は1990年以降、全国平均を下回って推移しており、今後も少子化傾向が続くものと推定されている。このため、女性が仕事を続けながら出産・育児を両立できる社会的な環境整備が課題。

(その他)

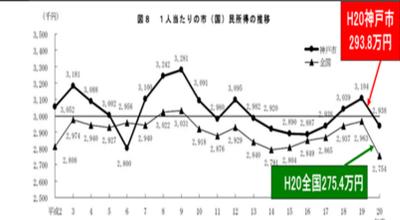
- 神戸市の保育需要は、近年の女性の就労増などの状況により、少子化にもかかわらず増加の一途をたどっており、保育所の入所児童数は、平成14年4月の15,985人に対して平成23年4月には20,388人と、9年間で4千人以上増加しているが、平成23年4月時点で、依然として481人の待機児童が発生している。

その他

「知の集積」を活用した国際化の推進・地元企業の活性化

- 経済の東京一極集中化、アジアの新興国の台頭、円高の進行等に伴い、神戸市の一人当たりの市民所得は2007年では1990年を下回る水準に低迷。雇用も、高齢者世代を中心に、全国平均を下回る状況。
- 神戸医療産業都市構想による日本を代表する医療クラスターの形成、国家基幹技術の京速コンピュータ「京」など「知の集積」を活用して、海外からの企業誘致、地元企業との連携等による新技術開発等の推進が課題。



【課題解決の方向性】

- 【環境】**
- 大規模太陽光発電など「クリーンな創エネ」と、電気と熱を一元管理するスマートエネルギーネットワークの構築などの「スマートな省エネ」により、**神戸産クリーンエネルギーの地産地消を総合的に推進**する。
- 【超高齢化対応】**
- 全てのライフステージを通じた健康づくり、介護予防の推進、安心な支える基盤の整備などを通じて、**高齢者が元気に社会参加でき、安心して出産・子育てができる都市の実現を総合的に推進**する。
- 【その他】**
- 神戸医療産業都市、京速コンピュータ京など**「知の集積」を活用した国際化の推進・地元企業の活性化を推進**する。

Ⅱ 神戸の強み・魅力

— 神戸の強み・魅力 —

- ①豊かな自然環境(山と海)と地域特性(森林、田園、市街地、臨海部)
- ②先端産業(神戸医療産業都市、京速コンピュータ「京」)や神戸ブランドなど、さまざまな先進的要素
- ③災害からの復興の経験(水害、阪神淡路大震災からの復興)
- ④市民力のきずなを活かしたソーシャルキャピタル
- ⑤住みたいまち、暮らしたいまちとしての総合的な魅力

①神戸の豊かな自然環境と地域特性

神戸は緑豊かな六甲の山々と田園・郊外、そして世界につながる海・港が近接し、瀬戸内海に面した快適で温暖な気候であり、世界でも数少ない豊かな自然条件に恵まれたにぎわいのあるまちである。

六甲山 ・禿山から100年の緑化事業を経て緑を取り戻した、神戸の豊かな自然の象徴。 ・土砂災害からまちを守る高い防災機能。 ・森林がもたらす空気・水の浄化機能、バイオマス資源。 ・観光資源、市民の憩い、健康づくりの場。	
海 ・恵み豊かな瀬戸内海は、神戸の自然のもう一つの象徴。 ・大都市では珍しい海水浴場。 ・都市近郊の漁業。	
田園 ・人口100万人以上の都市で農業生産額1位。 ・市域の約1割を農地が占め、多彩な農業を実施。	
多様な地域特性 ・豊かな自然を背景に、「臨海部」「市街地」「森林」「田園」といった他の大都市には見られない豊かな地域特性を有する神戸は、日本の縮図と言える。	



②神戸のさまざまな先進的要素

古くから港町として発展してきた神戸は、多彩な文化が融合する全国有数の国際都市、観光都市として知られる一方、幅広い分野の産業が発展し、神戸医療産業都市を始めとする知の集積が進むビジネスの好適地でもある。

エネルギーの地産地消 ・都市ガス導管注入(日本初)を実現した「こっぺバイオガス」事業 ・都心にある高効率発電所(神戸市のピーク時電力需要の70%を賅える) ・国内トップレベルの住宅用太陽光発電設置数	ナレッジの集積 ・世界最速(平成23年6月現在)のスーパーコンピュータ「京」を活用した、ナレッジの集積 ・環境関連の先端技術を有する日本を代表する企業が多数存在	神戸医療産業都市 ・高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、医療関連産業の集積により、日本最大のバイオクラスター形成をめざす ・先端医療技術の提供による経済活性化、市民の健康・福祉の向上、国際貢献に寄与
神戸ブランド・観光資源 ・神戸ビーフなど、世界に通用する食のブランド ・近郊農業を活かした地産地消の取り組み ・六甲山の夜景、有馬温泉などの豊富な観光資源	国際都市 ・世界的な国際企業の国内拠点が多数存在 ・多種多様な外国人コミュニティや外国人学校、外国語対応の医療機関 ・ユネスコ創造都市ネットワーク「デザイン都市」に認定(平成20年10月)	神戸港・神戸空港 ・空のゲートウェイ「神戸空港」 ・海のゲートウェイ「神戸港」の「国際コンテナ戦略港湾」の指定(阪神港として) ・観光資源、アメニティ空間としてのウォーターフロント

③災害からの復興

神戸は多くの災害からの復興により、災害に強い都市基盤を構築。神戸の復興の経験が、日本の災害対策の指針となってきた。

水害・土石流からの復興 ・阪神大水害(昭和13年)死者616名、被災家屋約9万戸 この災害を契機として六甲山系の砂防事業や表六甲の河川改修事業が国や県により本格的に行われることとなった。 ・昭和36年水害死者26名、被災家屋約7万戸 宅地造成現場や傾斜地での被害が大きく、宅地造成等規制法制定のきっかけとなった。 ・昭和42年水害死者77名、被災家屋約4万戸 政令市による河川改修制度の創設(昭和45年)のきっかけとなった。 ・現在、六甲山全体に600基以上の砂防堰堤を整備し、都市の安全を確保。	
阪神・淡路大震災からの復興 ・日本で初めての近代的な大都市における直下型地震。大きな破壊力をもって、未曾有の被害をもたらした。 ・「神戸市復興計画」にもとづき、都市計画、住宅供給、消防、道路、上下水道、鉄道など、幅広い分野で災害に強い都市基盤づくりを推進(下水道ネットワーク事業など)。 ・国の防災基本計画の全面修正(「復旧」から「復興」へ)、道路・水道・下水道などの耐震基準の改訂など、わが国の災害対策に大きな影響を与えた。	

⑤住みたいまち、暮らしたいまちとしての総合的な魅力

神戸は豊かな自然環境・産業・国際・観光などさまざまな強みを有し、都市の魅力ランキングで上位に位置する総合的な魅力を持った「住みたいまち」「暮らしたいまち」である。

地域ブランド調査2010:魅力度ランキング6位(居住意欲ランキング2位) ・ブランド総合研究所が、国内1,000の市区町村及び47都道府県を対象に、全63項目からなる消費者アンケート調査を実施(2010年は34,257人から回答)。地域のブランド力を評価し、都市の魅力ランキングとして公表。 ・神戸は、2010年総合ランキングで6位。主要な評価項目では、居住意欲について2位。
世界生活環境ランキング2010(MERCER社):41位(国内2位タイ) ・世界的なコンサルティング企業であるマーサー社(本社:ニューヨーク)が、政府や多国籍企業が従業員を海外に派遣する際に報酬を公平に決定するためのデータを作成する目的で、世界200以上の都市を対象として「世界生活環境調査」を毎年実施(2010年調査は221都市が対象)。 ・政治・社会環境、社会文化環境、公共サービスおよび交通、自然環境などの10カテゴリーについて査定を行い、総合的な生活環境を評価。
世界エコ都市ランキング2010(MERCER社):9位(国内1位) ・マーサー社は、2010年の「生活環境調査」において、「エコ」に関するスコアを算出し、「エコ都市ランキング」をあわせて発表。審査の観点は、「水道の供給力及び水質」「廃棄物処理」「下水設備」「大気汚染」「交通渋滞」の5項目。

④市民のきずなを活かしたソーシャルキャピタル

震災を乗り越え復興を成し遂げた、世界に誇れる強靱な「市民力のきずな」は神戸の誇りである。市民の「自助」「共助」の精神のもとで、多様な市民活動が広がっている。

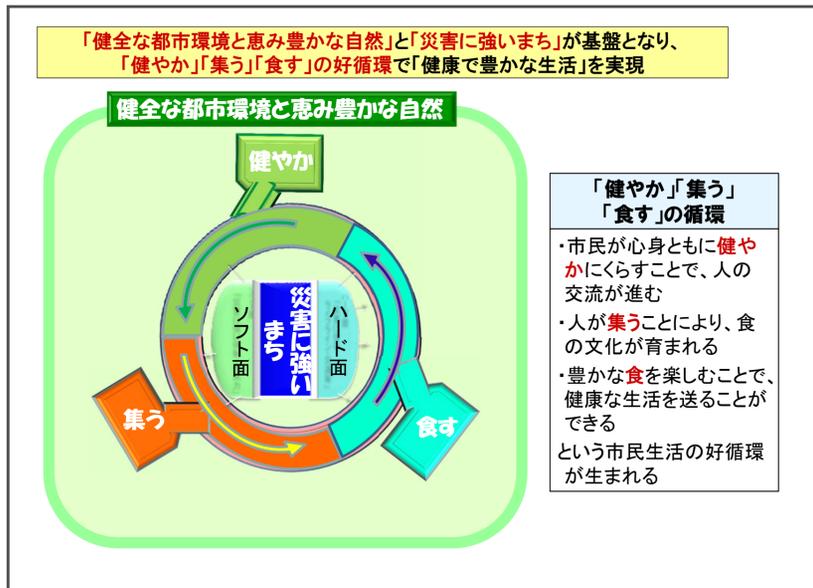
防災福祉コミュニティ(市民の自主防災組織、概ね小学校区単位で全市191地区結成) ・震災の教訓を踏まえ、地域を自分たちで守るための自主防災組織「防災福祉コミュニティ」を結成。 ・JICA兵庫等と連携し、防災福祉コミュニティの取組みを海外展開。	
まちづくり協議会(市内100地区で結成) ・“住んでよかった、これからもここに住み、働き続けたい”と思えるまちをつくるために、市民・事業者・行政などがそれぞれの役割分担のもと「協働のまちづくり」を進めるため、まちづくり協議会を支援。 ・昭和56年に制定した「まちづくり条例」にもとづき、まちの将来像や方針などをまとめ、特にルールとして決めておくことが必要な事項について市長との間で「まちづくり協定」を締結し、住民等と市が協力してその内容を守っていく。	
エコタウンまちづくり(環境をキーワードとしたコミュニティ活動、概ね小学校区で93地区結成) ・地域住民が主役となって、環境にやさしいまちづくりを行う「エコタウン」を全市展開。 ・環境をキーワードとしたコミュニティ活動の中で、環境に関する広報啓発、緑のカーテン運動、生ごみコンポスト化など、多様なメニューから地域に応じた活動を展開。	
神戸市地球環境市民会議(平成4年設置、市民の総意に基づく活動で地球環境問題に取り組む:24団体参加) ・平成4年に開催された「地球サミット」を契機に、地球環境問題を地域においてとらえ、市民一人ひとりの行動として取り組み、市民生活の向上を図るため設置。 ・様々な立場から代表者が集い、市民各層の総意に基づく市民運動として、「もったないやん! KOBE運動」「レジ袋削減協定」などの活動を展開。	

Ⅲ 神戸市環境未来都市構想の基本戦略

未来を拓くおしゃれなまち こうべ ～ 自然に恵まれ 災害に強いまちで みんなが健やかに、集い、食す～

神戸市環境未来都市構想のコンセプト

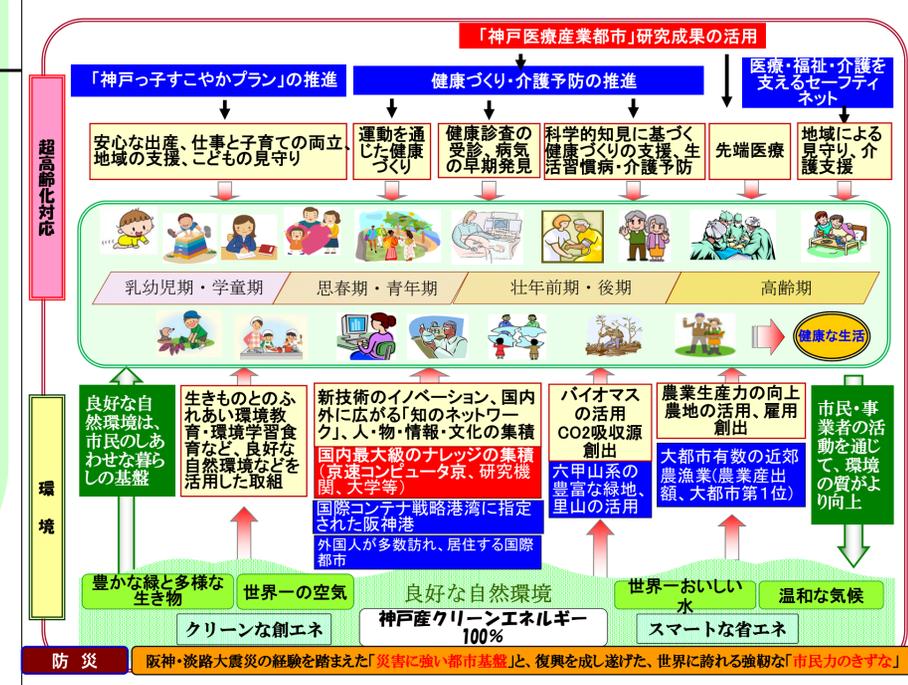
～ 神戸をこんなまちにしたい～



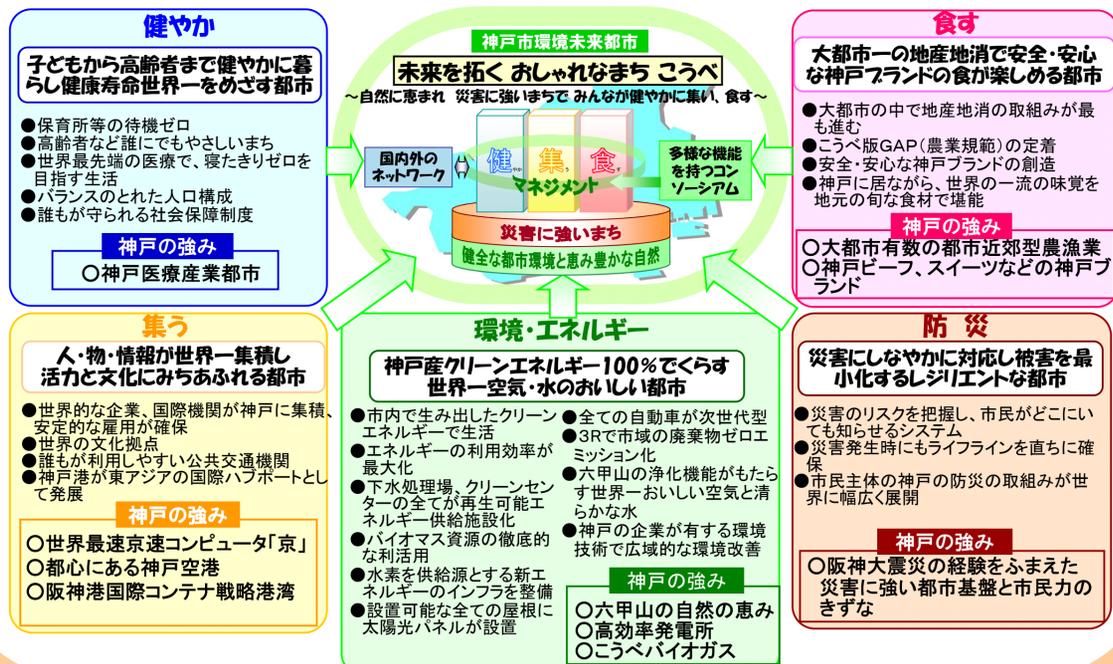
環境未来都市構想で実現する将来ビジョン

「おしゃれ」のイメージ...市民が、自然界の道理や、環境との接し方を熟知したうえで、生活の豊かさを実感しながら、スマートに立ち振舞う姿

環境未来都市構想の構成と市民のライフステージとの関係



神戸の将来ビジョン(2050年頃)



神戸の将来ビジョン(2050年頃) 市民生活から見れば



IV テーマ「環境」

「環境」将来ビジョン

神戸産クリーンエネルギー100%でくらす世界一空気・水のおいしい都市

地産地消のエネルギー革命！ 太陽光・バイオガス・水素のベストミックスで エネルギーを賢く使うまち・こうべ

「環境」低炭素・省エネルギー

再生可能エネルギーの地産地消(クリーンな創エネ)



神戸産クリーンエネルギー100%でくらす世界一空気・水のおいしい都市



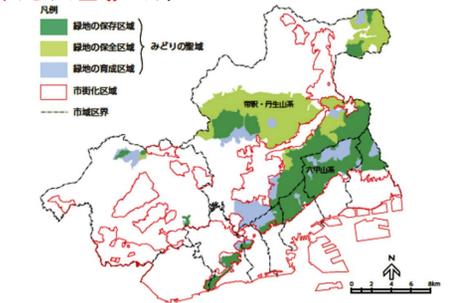
- 太陽光発電の促進
 - ◆メガソーラー 50MW以上(処分場、港湾倉庫の利用)
 - ◆一般家庭 6万戸以上(23年度末8,000戸以上)
- 省エネナビの普及
 - ◆一般家庭 5万世帯(24~28年度)

「環境」自然環境・生物多様性

- 条例、計画に基づく恵まれた自然環境の保全 -

「みどりの聖域づくり」を継続して進めるとともに、「生物多様性神戸プラン2020」、「六甲山森林整備戦略」に基づく施策を展開することにより、本市の大都市としてまれな優れた自然環境を保全し、生物多様性の保全・向上を図る。

緑地の保全・育成及び市民利用に関する条例
豊かで多様性に富んだ緑地環境の保全と活用の調和を図るため、必要な区域を緑地の保存区域等として指定し、区域内での土地造成等の行為に一定の制限を行う。
(みどりの聖域づくり)



みどりの聖域(2010年):緑地の保存区域等の通称

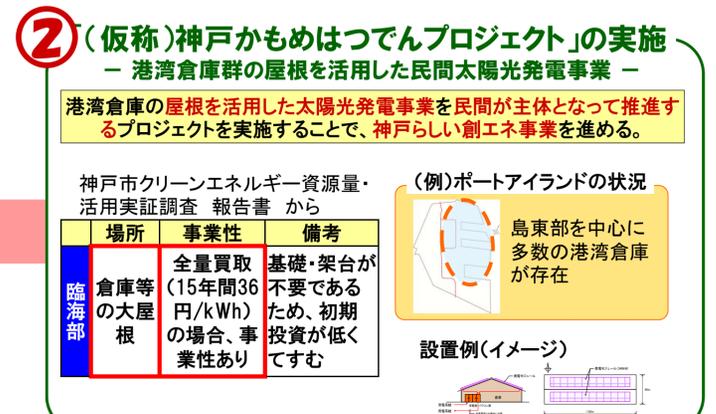
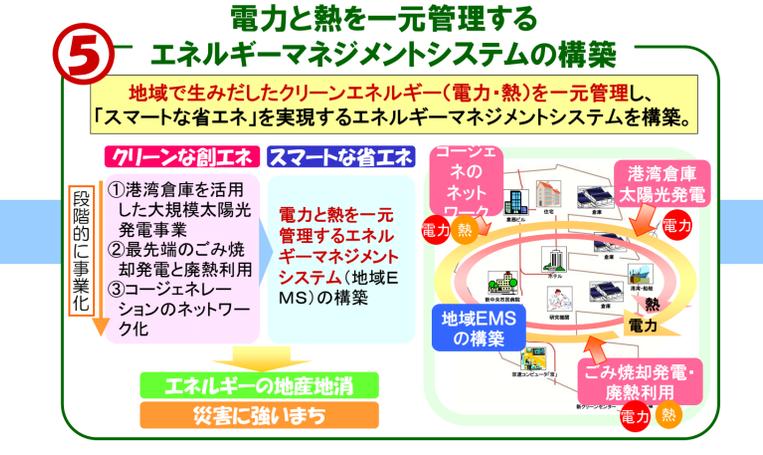
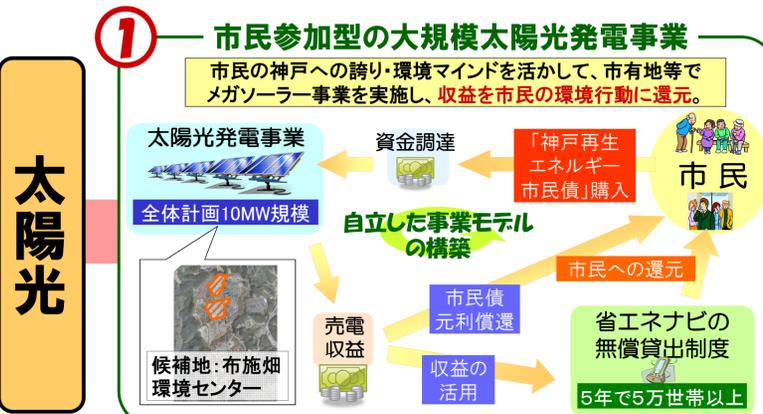
生物多様性神戸プラン2020
生物多様性基本法に基づく地域戦略として平成23年2月に策定。
市の行動計画に基づく主な事業
・生物多様性保全対策指針による開発時における生物への事前配慮
・冬期湛水水田による生物多様性の向上
・不耕作地の湿地環境としての再生利用
・ふれあい市民緑地制度を利用した市街地における樹林地の保全
・「緑のカーテンプロジェクト」の全市展開
・「生物多様性保全シンボル拠点」の整備
・市民参加型生物多様性モニタリングプロジェクト

六甲山の保全
六甲山整備戦略を策定し、これからの100年を見据えた施策展開により六甲山の緑地の保全・育成を行う。

再生可能エネルギーの地産地消 (クリーンな創エネ)

エネルギーの有効利用 (スマートな省エネ)

六甲山の恵みの活用



V テーマ「超高齢化対応」

「超高齢化対応」将来ビジョン

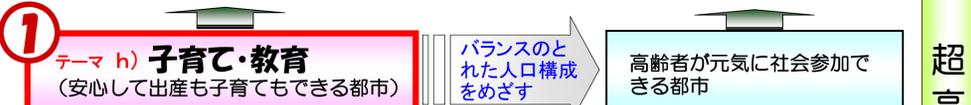
子どもから高齢者まで健やかに暮らし、健康寿命世界一をめざす都市

医療産業都市で健康革命！
ライフステージに応じた健康づくりで
高齢者が活躍するまち・こうべ

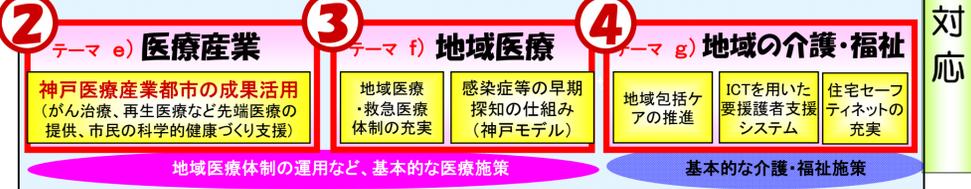
「健やか」基本戦略(超高齢化対応の基本戦略)

○「ライフステージ全般を通じた健康づくり」を基本として、万一、疾病や要介護状態になっても、「地域医療」「地域の介護・福祉」及びそれらに「医療産業」から得られた成果を活用し、強化充実された「安心を支える基盤の整備(セーフティネット)」によって市民の健康をまもる。
○これらの取り組みをもとに、「子育て・教育」(市民が安心して出産も子育てできる都市)を進め、バランスのとれた人口構成を目指して、「高齢者が元気に社会参加できる都市」を実現する総合的な施策を推進することで、「超高齢化を克服し」「健康寿命世界一の都市」をめざす。

将来ビジョン 子どもから高齢者まで健やかに暮らし、健康寿命世界一を目指す



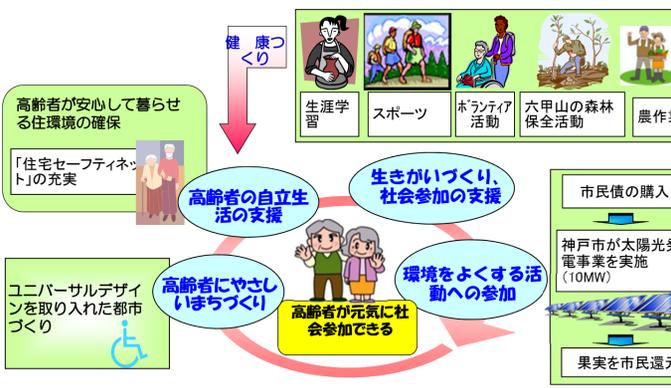
安心を支える基盤の整備(セーフティネット)



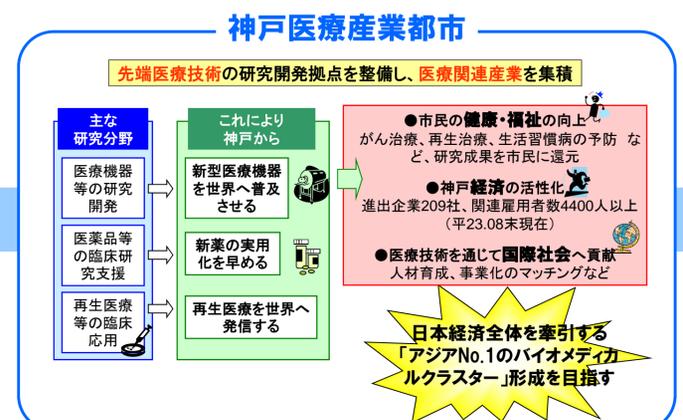
超高齢化への対応

高齢者が元気に社会参加できる都市の推進

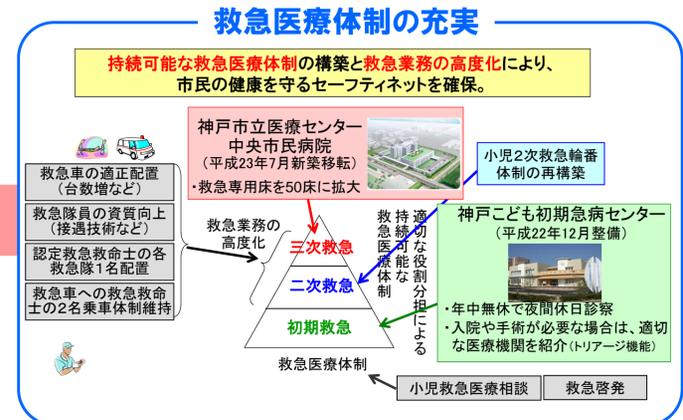
高齢者が農作業や六甲山の森林保全活動に取り組み「生きがいづくり」や社会参加を進めると同時に、健康づくりを進める。また、市民債の購入を通じて太陽光発電の実施を支援するなど、環境をよくする活動にも参加する。



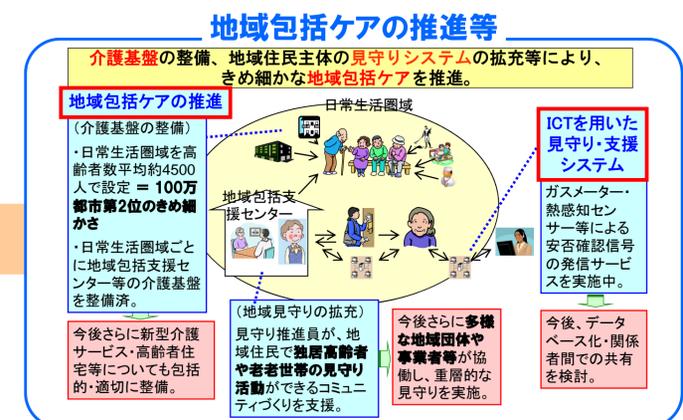
1 医療産業



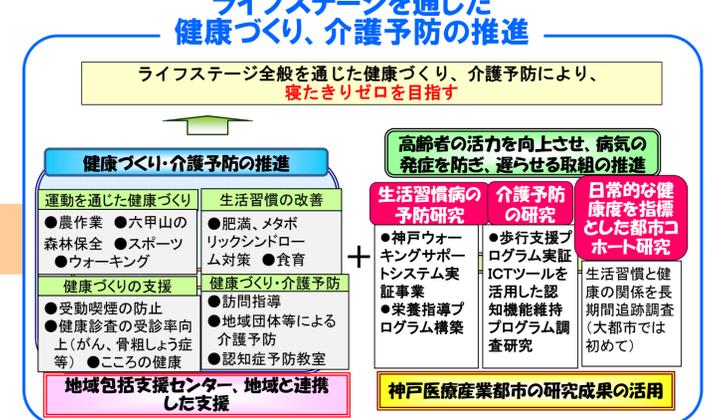
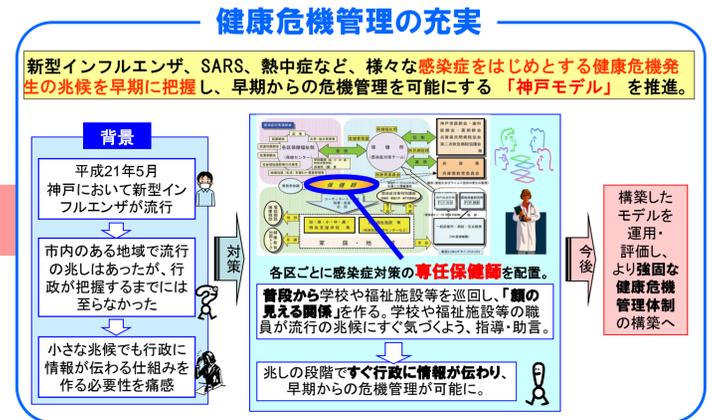
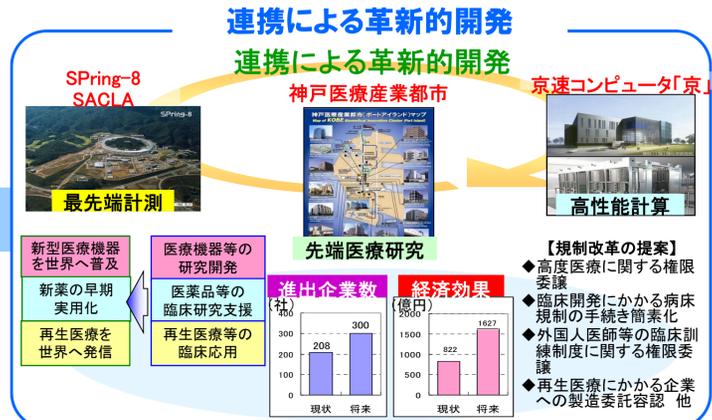
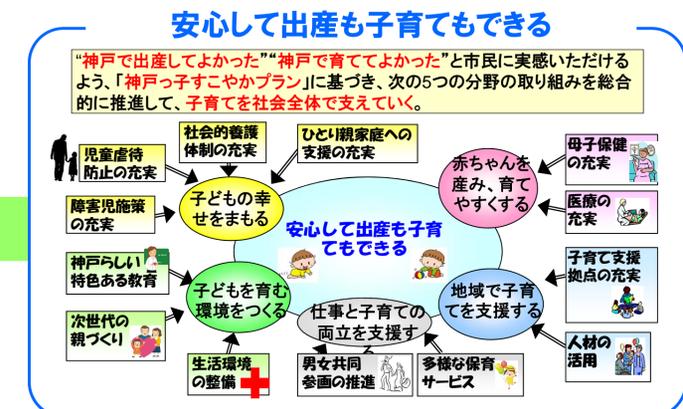
2 地域医療



3 地域の介護・福祉



4 子育て・教育



VI テーマ「その他」 防災・復興支援

「防災・復興支援」将来ビジョン

災害にしなやかに対応し 被害を最小化するレジリエントな都市

**震災の教訓を踏まえた
レジリエント革命！**
災害に強いインフラと市民力のきずな(BOKOMI)で
みんなが安全・安心に暮らせるまち・こうべ

「防災」基本戦略

－ 神戸をより災害に強いまちにし、経験を活かして被災地を支援 －

将来像：災害にしなやかに対応し
被害を最小化するレジリエントな都市

災害に強いまちづくりの経験と技術で被災地の復興を支援

ハード面

- 1 危機管理センターの整備・運営(新危機管理システム、消防新完成システムの整備・供用)
- 2 災害に強い水道・下水道の整備
・幹線道路ネットワークの構築
・公共施設の耐震化(橋梁、学校施設など)
・自立分散型電源の確保
・防災緑地帯の整備(水と緑のネットワークの形成)

ソフト面

- 3 地域の防災力の向上
・防災や救急救命を担う人材育成
・消防力の高度化専門化
- 3 防災福祉コミュニティの育成(防災教育への参加促進)、国内外への発信(BOKOMIの海外展開)
・ICTを活用した災害情報を伝えるしくみづくり(携帯電話等の活用促進)

ハード・ソフト両面の対応

神戸の強み：阪神・淡路大震災からの復興の経験

- ・災害に強い都市基盤
- ・市民力のきずな

- ◆市民防災リーダー 13,000人(2015年度)
- ◆市民救命士 57万人(2015年度、市民3人に1人)

ハード面の取組み

ソフト面の取組み

東日本大震災被災地支援 復興の経験を活かした

1 危機管理センターの整備・運営

「市民とともに築く安全・安心都市神戸の拠点」をテーマに、風水害や震災を含めたあらゆる危機に対応できる中枢拠点「神戸市危機管理センター」を整備する。(施設規模：地上9階、地下1階、塔屋1階、免震構造計画地面積 約1,350㎡、延床面積 約9,190㎡)

あらゆる危機対応活動を迅速かつ持続的に行う「中枢拠点」

- ◆ライフラインが途絶しても、3日間の初動対応が可能。
- ◆多方面の情報を活用する「新危機管理情報システム」を構築。

危機対応のための組織・情報の「集約拠点」

- ◆他の部局から独立した「危機管理室」が各部局を統括。
- ◆消防局との連携を強化し、あらゆる危機情報を整理・集約。

「自助」「共助」の力を育む市民の「活動拠点」

- ◆地域活動の裾野を広げ、震災の経験を未来に伝承していくための市民開放スペースを設置。

2 震災復興を通じた“災害に強く環境にやさしい上下水道”の構築

震災からの復興の経験を活かし、災害に強く環境にやさしい上下水道を構築。

「災害に強い下水道」 －下水道ネットワークシステム－

- 市内の主要処理場を大深度の幹線で接続し、災害に強い処理場間ネットワークを構築。

「環境にやさしい下水道」 －汚泥からエネルギーを生み出す「こうべバイオガス」－

- 下水汚泥の処理過程で発生する消化ガスを精製し、日本初の都市ガス導管への直接注入など利用拡大を推進。

「災害に強い下水道」 －市街地大容量送水管の整備－

- 高い耐震性と大きな貯留能力(59,000㎡)。

「環境にやさしい下水道」 －「AQUAルネッサンス神戸」の推進－

- 水の有効利用による環境に配慮した施策を推進。(小水力発電、水道施設の壁面・屋上緑化など)

3 防災福祉コミュニティ(BOKOMI)の世界への発信

震災の経験を踏まえた地域主体の自主防災組織「防災福祉コミュニティ」の取組みを、国内のみならず海外へも発信。

「BOKOMI」の世界への発信

「防災福祉コミュニティ(BOKOMI)の概念及び活動を自然災害罹災国に発信。平成22年12月、インドネシアで海外第一号のBOKOMIが結成

取り組みを世界へ発信

自主防災組織「防災福祉コミュニティ」の育成と国内への発信

地域を自分たちで守るための自主防災組織「防災福祉コミュニティ」の育成を支援(市内全域191地域に結成)し、国内での普及に向けて発信。

市民のきずなを形にし、国内に発信

阪神・淡路大震災では、市民の助け合いのきずなが大きな役割を果たした

日頃からコミュニティ活動が活発な地域では、地域住民が協力して消火活動や救助活動にあたり、震災発生直後に救出された人のほとんどが近所の人に助けられた。

下水道ネットワークシステム

4処理場を接続、管路延長33km(H23.5全線供用)

4 東日本大震災の被災地の支援

神戸の震災の経験を活かした支援

阪神・淡路大震災の復興の経験を活かし、ボランティアセンターの立ち上げ、災害廃棄物の処理対策等に専門家を派遣し、復旧・復興を支援。

その他、地震発生直後から被災地に職員を派遣し、消防救助活動や避難所運営、廃棄物対応、医療・保健活動などのあらゆる方面で支援を展開。現在も、変化する被災地のニーズに合わせた支援活動を実施中。

派遣人員数：1,772人(平成23年8月22日現在)

主な支援内容

- ・避難所設置、運営 ・り災照明調査 ・復興計画策定に向けた支援 ・医療、保健活動
- ・給水支援 ・環境(災害廃棄物処理、家庭ごみ収集など) ・下水道復旧 ・水道復旧
- ・道路復旧 ・住宅供給支援 ・消防活動 ・教育

災害廃棄物処理支援

石巻市の災害廃棄物処理を支援するため、廃棄物処理の職員、機材を2ヶ月にわたって派遣。

期間：6月1日～7月29日 職員：167名(日人のべ数1,390名)
機材：8台(2tパッカー4台、2tダンプ2台、車両整備部品搬送車1台、連絡車1台)

救助活動

災害廃棄物の撤去

避難所の運営支援

給水支援

医療・保健活動

下水道復旧調査

災害義援金の支援

VII テーマ「その他」 知のネットワーク・国際化

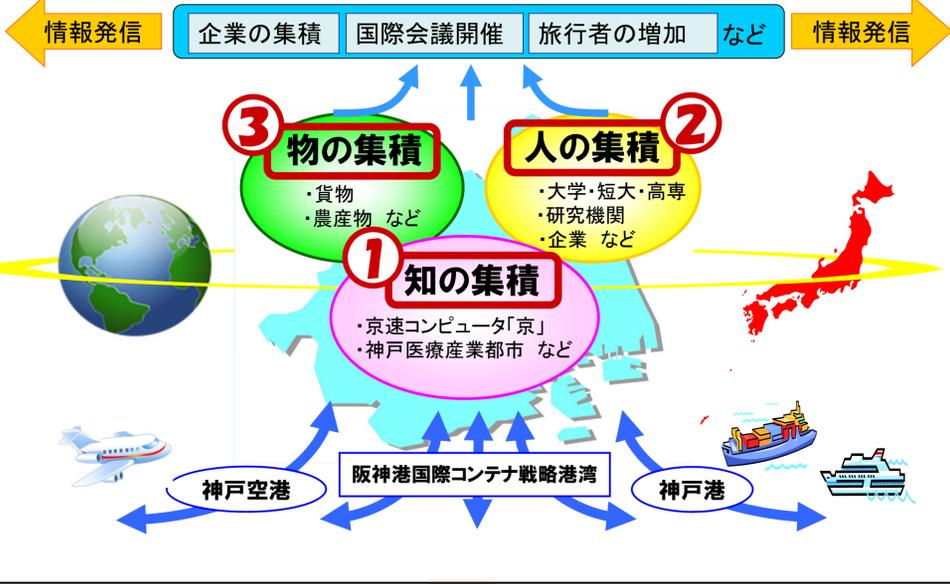
「知のネットワーク・国際化」 将来ビジョン

人・物・情報が世界一集積し活力と文化にみちあふれる都市

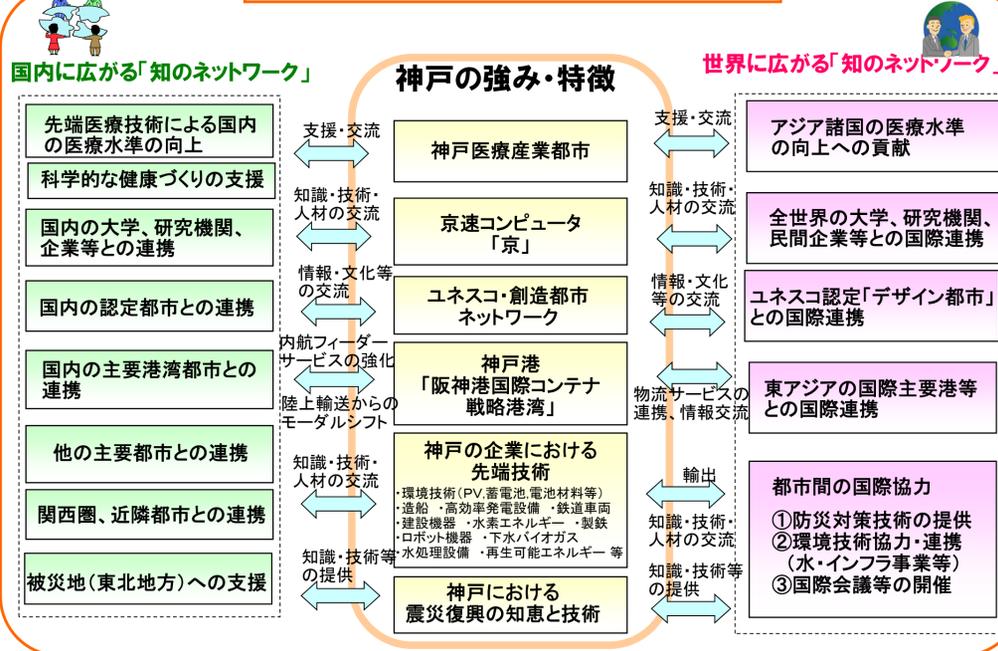
知のネットワークでイノベーション革命！
人・もの・情報が集い、発展し、その成果を世界に発信するまち・こうべ

「集う」基本戦略

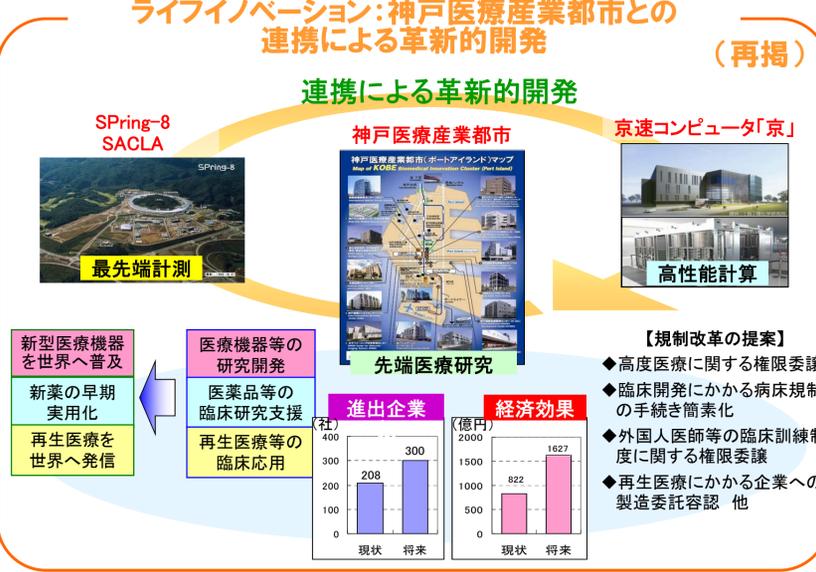
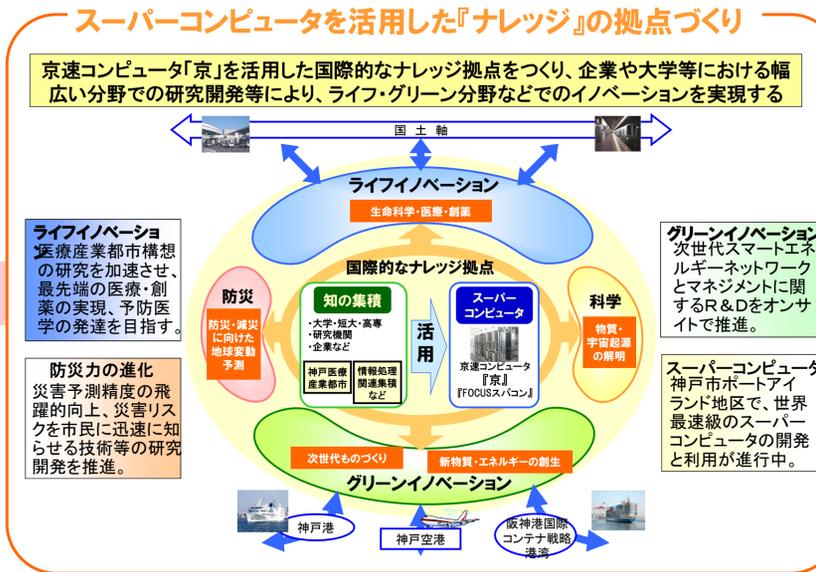
「知」の財産を通じ「人」や「物」が国内外から神戸に集い、交流する活力と文化にみちあふれる都市をめざす。



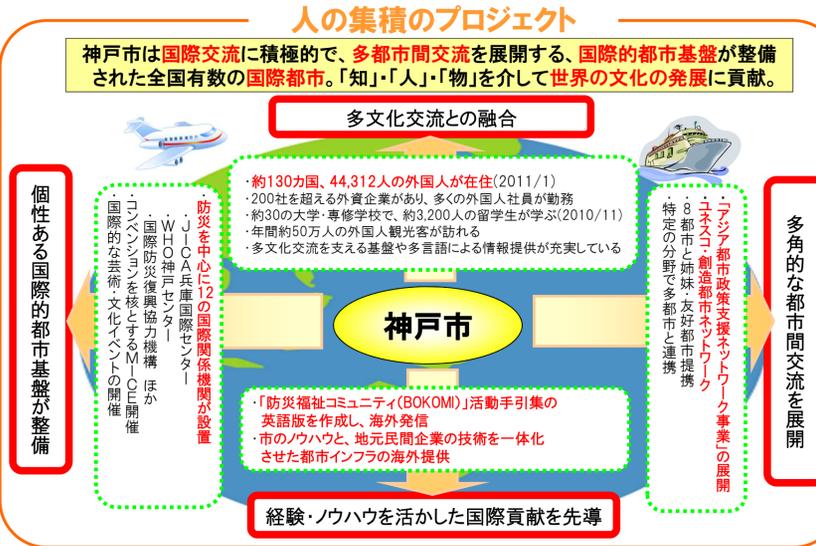
国内・世界に広がる「知のネットワーク」



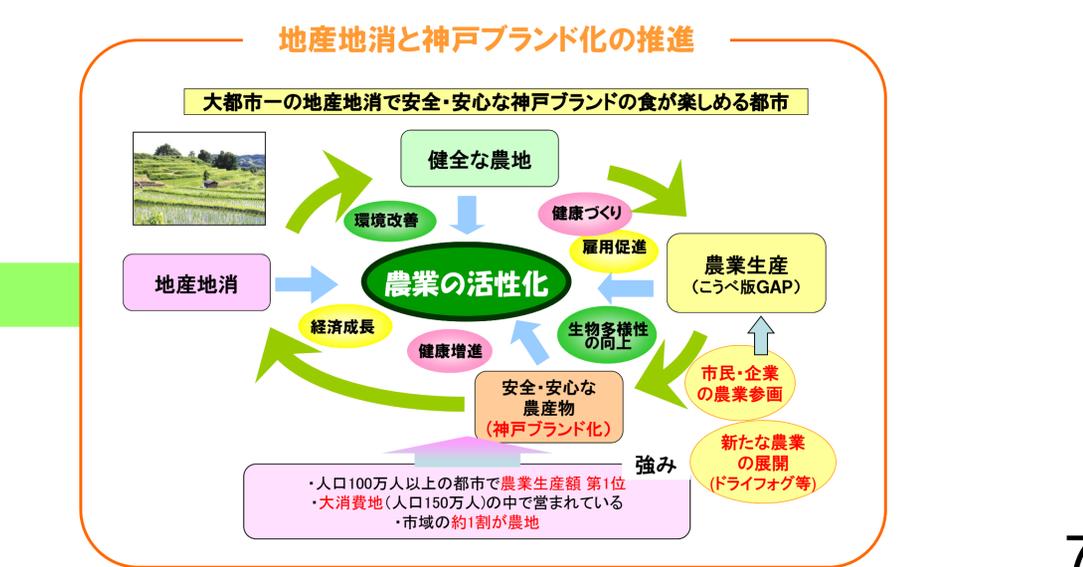
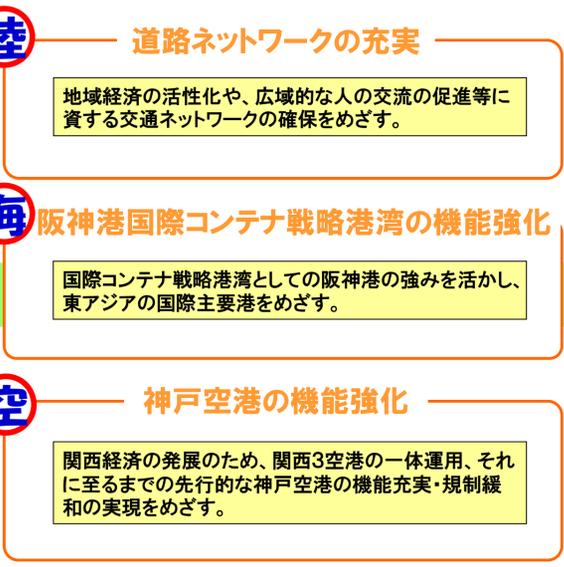
1 知の集積



2 人の集積



3 物の集積



VIII 神戸市環境未来都市構想 事業マップ

世界に誇れる市民力の絆

14 BOKOMI 世界発信



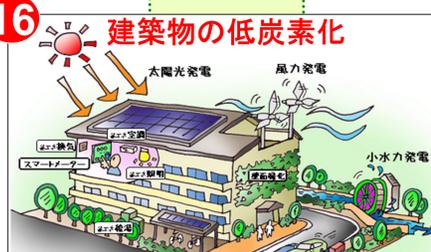
防災福祉コミュニティ(BOKOMI) 全市191地区結成

15 緑のカーテンプロジェクト



全市(60万戸)展開

16 建築物の低炭素化



太陽光発電 風力発電 小水力発電 蓄動力発電

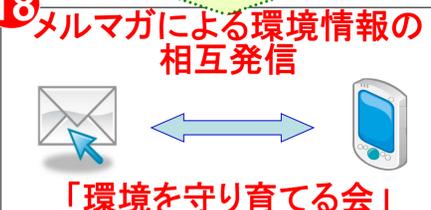
17 省エネナビの普及



(平成28年度 5万世帯)

環境情報

18 メルマガによる環境情報の相互発信



「環境を守り育てる会」 (10万人登録)

12 農業への企業参入



(株)トーホーファーム
新鮮・安全安心ブランド・儲かる農業を目指す。

10 国内トップレベルの家庭用太陽光発電装置の普及



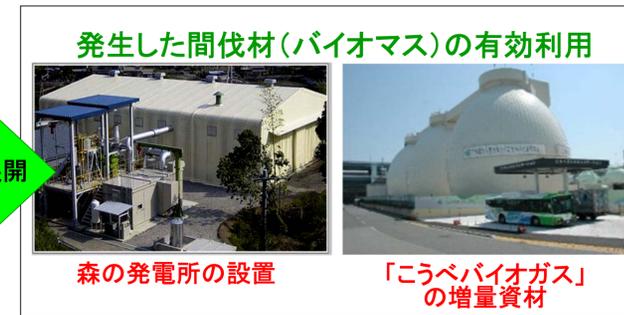
現在約8千世帯⇒将来6万世帯

9 六甲山森林整備戦略の策定



(平成23年度)

発生した間伐材(バイオマス)の有効利用



森の発電所の設置 「こうべバイオガス」の増量資材

KOBEグリーン・スイーツプロジェクト

都市ガス導管注入(平成22年度～)



スイーツバイオマス実証事業(平成23年度～)

消化ガスの100%活用をめざして



西部処理場 垂水処理場 東灘処理場

「こうべバイオガス」の活用推進



13 市民参加型メガソーラー(10MW)



神戸三木線 神戸淡路湾自動車道

埋立台地 埋立範囲102ha

送電線L=3km

収益を市民に還元

布施畑処分場における市民参加型太陽光発電所(平成24年度 第1期工事)

国内最大級のナレッジの集積

1 大学(神戸大学)による研究拠点施設

2 世界第2位の企業

3 神戸医療産業都市(ポートアイランド)マップ

4 京速コンピュータ「京」によるイノベーション推進

新薬・新素材の開発

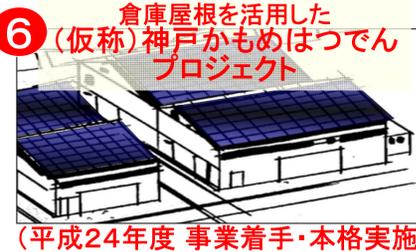
神戸医療産業都市(ライフイノベーションの推進)

7 下水道ネットワークシステム



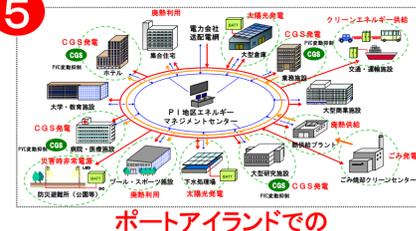
(平成23年度 33km全線供用)

6 倉庫屋根を活用した(仮称)神戸かもめはつでんプロジェクト



(平成24年度 事業着手・本格実施)

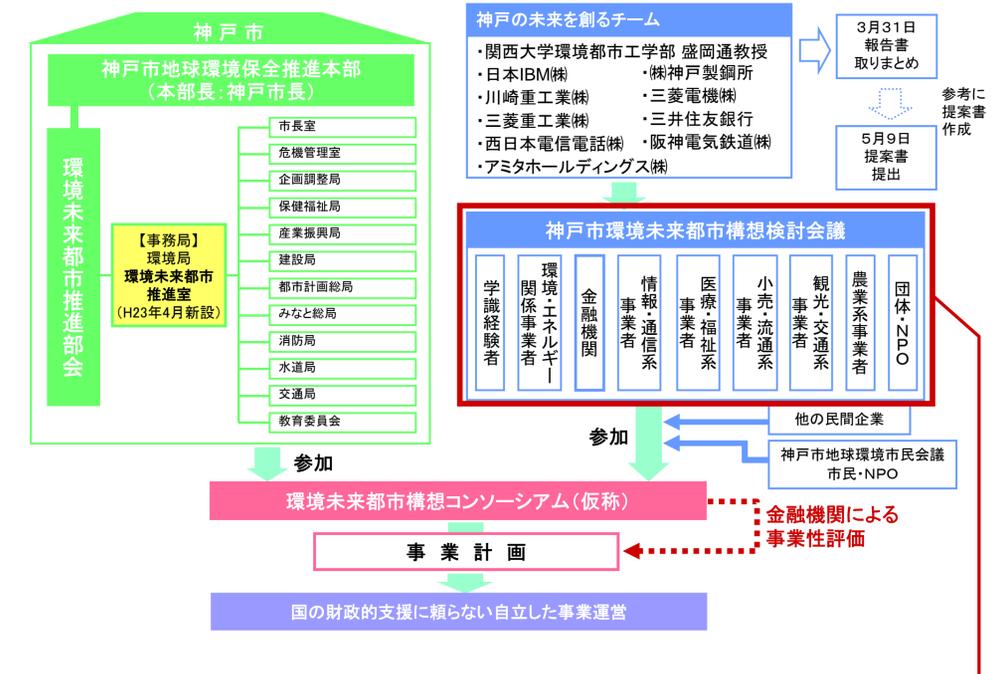
5



ポートアイランドでのスマートエネルギーネットワークの構築

Ⅸ 神戸市環境未来都市構想の推進体制

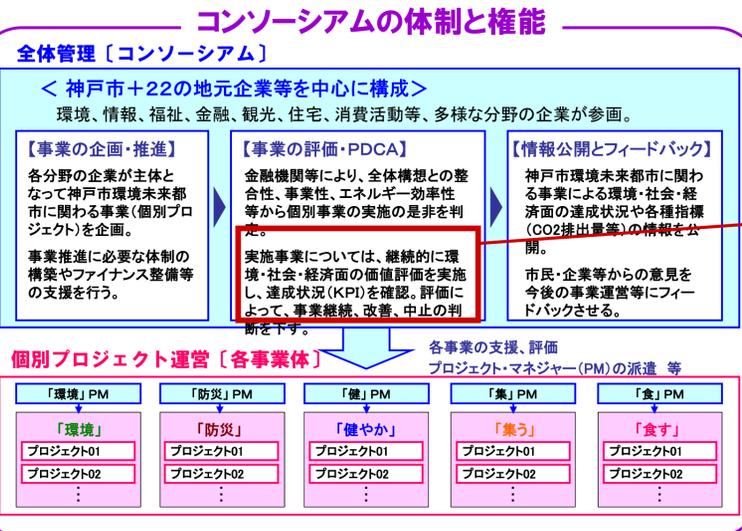
神戸市環境未来都市構想の推進体制



体制と機能

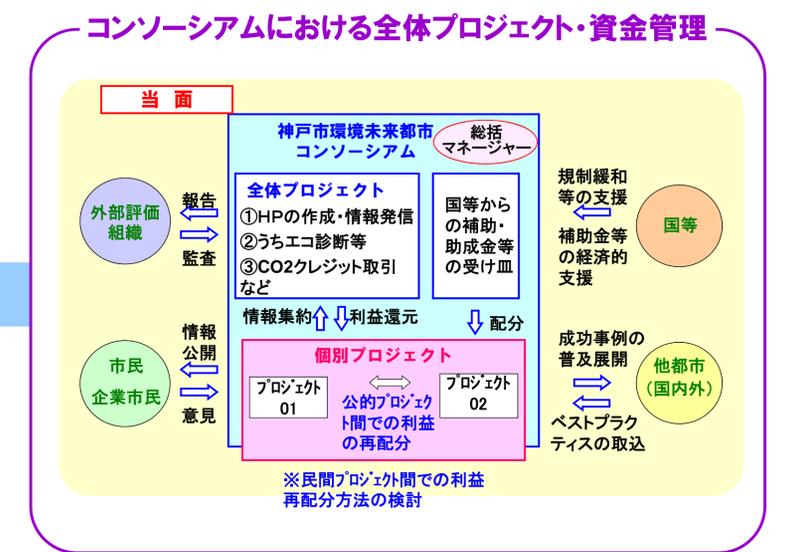
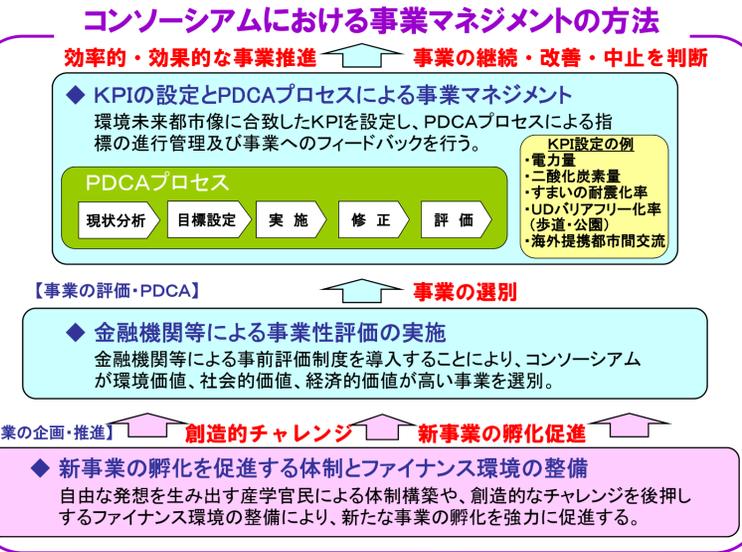
マネジメント

市民の参加



神戸市環境未来都市構想による価値の創造

テーマ	環境価値	社会的価値	経済的価値
① 環境	a) 低炭素・省エネルギー	・クリーンエネルギーの活用による省エネの促進、より健康な生活が送れる環境の創造	・新たな環境ビジネスの創出による、新たな企業の集積、継続的な雇用の創出、国際化の推進
	b) 水・大気	・大気・水質の改善 ・河川水質の確保による健全な水環境の形成	・心身ともに健康な市民生活 ・高齢者が元気に活動することで社会的連帯の回復
	c) 自然環境・生物多様性	・六甲山の森林保全・育成及びびのびのカーンプロジェクトの全市展開が「健康社会」「防災・防災」「自然共生社会」に寄与	・森林の健全・育成による災害の防止 ・健康づくりの場による健康増進 ・「健康社会」「防災・防災」「自然共生社会」による市民の安心・安全向上
② 超高齢対応	d) 3R	・ごみ処理量の削減と環境負荷の低減による大気・水質の改善及び地球温暖化対策への貢献(CO2排出量削減)	・六甲山の魅力向上による観光の振興 ・新たな雇用の創出による雇用拡大、雇用創出 ・「健康社会」「防災・防災」「自然共生社会」による市民の安心・安全向上
	e) 医療産業	・高齢者が健康な生活を送ることによる、環境活動への参加促進	・高齢者が健康な生活を送ることによる、社会的安心の向上 ・高齢者の住み慣れた在宅での暮らしの継続
	f) 地域医療	・高齢者が健康な生活を送ることによる、環境活動への参加促進	・健康危機管理・救急医療体制の充実による、社会的安心の向上 ・高齢者の住み慣れた在宅での暮らしの継続
③ その他	g) 地域の介護・福祉	・高齢者が健康な生活を送ることによる、環境活動への参加促進	・健康危機管理・救急医療体制の充実による、社会的安心の向上 ・高齢者の住み慣れた在宅での暮らしの継続
	h) 子育て・教育	・環境教育の推進による、子ども世代からの環境意識の向上	・健康危機管理・救急医療体制の充実による、社会的安心の向上 ・高齢者の住み慣れた在宅での暮らしの継続
	i) 防災・震災復興	・再生可能エネルギーの活用促進による低炭素社会の構築	・災害時の被害の最小化による経済損失の最小化 ・被災者の生活再建による社会全体の経済回復と活性化
j) 知のネットワーク・国際化	・最先端技術等の海外展開への普及 ・R&Dの促進による新たな環境先端技術の開発	・イノベーションの創出による、新たな産業の集積と雇用の創出 ・R&Dの促進による新たな環境先端技術の開発	



神戸市環境未来都市構想検討会議

「環境・エネルギー」「情報・通信」「医療・福祉」「小売・流通」「交通・観光」「農業」など、神戸で活躍する幅広い分野の企業・団体が参画。

区分	企業・団体等	所属・補職	氏名
委員	学識経験者	関西大学 環境都市工学部 教授	盛岡 通
	京都女子大学 現代社会学部 教授	横村 久子	
企業関係者	神戸大学 大学院工学研究科 教授	近藤 昭彦	
	大阪ガス株式会社	兵庫エネルギー営業部長	近本 茂
	川崎重工業株式会社	企画本部新事業推進部新事業推進課 課長	横山 稔
	関西電力株式会社	神戸支店 副支店長	繁田 彰
	株式会社神戸製鋼所	環境防災部長	竹内 正道
	三洋電機株式会社	エナジーデバイスカンパニー大型蓄電事業部 技術統括部技術設計部 担当部長	萩原 龍蔵
	株式会社JTB西日本	神戸支店法人営業部長	田中 好明
	シスメックス株式会社	新事業推進本部 参与	寶田 馨
	神鋼ケアラフ株式会社	顧問役	佐伯 壽一
	生活協同組合コープこうべ	常勤理事	山添 令子
	株式会社トーヨー	CSR推進部 部長	岡村 泰光
	西日本電信電話株式会社	兵庫支店法人営業部 副本部長	矢ヶ崎 且季
	日本IBM株式会社	公共事業官公庁IBDT Smarter City推進部長	岡村 久和
	パナホーム株式会社	品質・環境本部長	中村 裕
	阪神電気鉄道株式会社	関連事業部長	久保田 晃司
兵庫六甲農業協同組合	常務理事(神戸地域事業本部担当)	前田 憲成	
富士電機株式会社	社会システム事業本部スマートコミュニケーション事業部 総合技術部 担当部長	桑山 仁平	
各種団体	三井住友銀行	公共・金融法人部 部長	森田 成敏
	三菱重工業株式会社	神戸造船所機械・鉄構事業本部交通・先端機器事業部新製品開発室 室長	藤田 謙也
	三菱電機株式会社	兵庫支店 支店長	大出 勉
NPO	神戸商工会議所	理事・プロジェクト推進部長	安田 義秀
	NPO法人ワット神戸	会長	津田 久雄
技術システムアドバイザー	株式会社明電舎	支配人 スマートグリッドプロジェクトリーダー	佐藤 信利

神戸市地球環境市民会議

神戸市地球環境市民会議

平成4年にリオデジャネイロにおいて開催された「地球サミット」を契機に、地球環境問題を地域においてとらえ、市民一人ひとりの行動として取り組み、市民生活の向上を図るため設置。神戸市環境基本計画において、市民・事業者の取り組みを推進する団体として位置づけている。

委員長：関西大学環境都市工学部教授 盛岡 通

副委員長：神戸市婦人団体協議会専務理事 妹尾 美智子

委員(上記以外)：顧問 8名
各種団体 26名
学識経験者 4名
神戸市議員 6名
神戸市職員 4名
幹事 7名

(平成23年7月現在)

市民による活動展開

- 地球活動市民会議の活動などにより、環境未来都市のさまざまな活動を全市民展開する。
- 緑のカーテンの全市展開 (市内60万戸)
個人や地域団体の建物の窓側につける性植物で日陰を作り室温を下げる。
 - 「神戸再生エネルギー市民債」の購入 (約41億円の市民債)
市が太陽光発電事業を行うために発行する個人向けの市債を購入することにより、事業の資金調達に協力するとともに、利息を得る形で個人の資産を運用する。
 - 省エネナビの5万世帯への貸し出し
省エネナビ(家電の消費電力の表示する機器)を市民に無償で貸与し、各家庭における省エネを進める。
・省エネナビ「見える化メーター」の無償リース
・その他、省エネナビとセットで導入する太陽後発電、高効率給湯器、太陽熱温水器、断熱改修に対する補助
 - メルマガ「環境を守り育てる会」(市民10万人参加)
「神戸再生エネルギー市民債」の購入者や「神戸スーパーエコ補助制度」の利用者等に対して市がメルマガ方式で様々な環境関連情報を発信する「環境を守り育てる会」に加入し、環境に関する意識向上をさらに図る。